

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	子宮筋腫に対する鏡視下手術、ロボット支援下手術、腹式手術における、術前GnRHアンタゴニスト製剤投与に関する検討
研究責任者	宮内 彰人
研究機関名	日本赤十字社医療センター
研究目的と意義	<p>子宮筋腫に対する手術療法の術前投与薬剤として、経口GnRHアンタゴニスト製剤であるレルミナ錠が保険収載されました。既存の治療として、リュープリン注射剤の月1回投与を行ってきましたが、今後、この経口GnRHアンタゴニスト製剤は子宮筋腫の患者さんの術前治療薬の選択肢となり得ます。そこで、経口GnRHアンタゴニスト製剤の治療効果や副作用を後方視的に検討するとともに、既存の治療薬であるリュープリン製剤との比較、検討を行います。</p>
研究方法	<p>2015年1月1日から2020年4月30日までの間に、当センターにて子宮筋腫に対して手術を行ったすべての患者さんを調査し、後方視的に検討します。検討項目については患者年齢、投与期間、Hb値の推移、子宮筋腫の大きさの変化、副作用とします。内服・注射ともに行わなかった例、経口GnRHアンタゴニスト製剤：レルミナ®を内服した例、既存の治療であるリュープリン製剤を使用した例について、上記項目を評価し、それぞれを比較することで、各治療薬の有効性、副作用について検討します。</p> <p>この研究は個人情報には匿名化し学会等で公開されます。ご賛同いただけない方はお問い合わせ下さい。ご賛同いただけない場合でも不利益が生じることはありません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 産婦人科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者：鈴木 研資 TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>